



立川総合病院消化器センター  
外科 主任 医師  
日本ヘルニア学会 評議員  
蛭川 浩史

鼠径ヘルニアについて  
その2

今回は鼠径ヘルニアの治療法についてです。

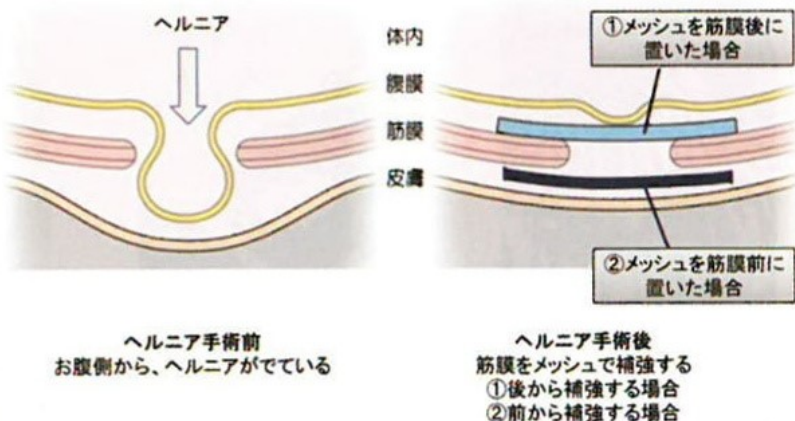
鼠径ヘルニアは薬で治す事はできず、手術が必要ですが、脱腸帯というベルトを用いて押さえ込む方法が行われていたことがありましたが、効果がないばかりか内臓を傷つけてしまうことがあり、あまりおすすめできません。

子どもの鼠径ヘルニアは、先天的に、腹膜に袋状にふくらんだ部分が残っている事が原因で、自然に治ることもあります。手術はこの袋を縛って閉じるだけでよく、15分程

度で終わります。

大人では弱くなった筋膜の隙間を補強する手術が必要です。補強にはいくつかの方法がありますが、特殊な場合を除き、メッシュという合成繊維でできた網を当てて、飛び出してこないようにする方法が主流です(図1)。メッシュはポリプロピレン製あるいはポリエステル製で溶けません。

(図1)



ヘルニア手術前  
お腹側から、ヘルニアがでている

ヘルニア手術後  
筋膜をメッシュで補強する  
①後から補強する場合  
②前から補強する場合

手術用の糸と同じ素材でつくられた、医療用に安全に細工された薄いシートです(図2)。形や硬さも様々で外科医の好みやヘルニアの程度によって使い分けれます(図2)。薄いメッシュなので、術後に違和感はほとんどありません。

手術には鼠径部を切開する方法と、腹腔鏡を用いる方法があります。

鼠径部切開法は膨らんでいる鼠径部に5-6cmの切開をおき、メッシュで補強する方法で、筋膜の上から補強する方法と、後ろから補強する方法に分かれます(図1)。

手術は局所麻酔で行うことができ、身体にかかる負担は最小限です。立川病院では、私たちが特別に配合した麻酔薬を使用した局所麻酔法で行っています。手術時間は40分から60分くらいです。局所麻酔法の場合は、術後に1時間ほど休んだ後から、普通に

(図2)



食事ができ、歩く事もできます。午前中に手術をした場合は、夕方、術後の傷に出血や腫れなどの問題がなければ日帰りでもできます。新潟県内では、日帰り手術はまだ一般的ではありませんが、当院では以前より、希望される方には日帰りで行って来ました。希望される方はご相談ください。次回は、もう一つの手術、腹腔鏡下手術についてお話しいたします。